

# 子育てひろばにおけるアドバイス

## ——子育ての知識・経験の普遍性と固有性——

一橋大学大学院 山岸諒己

### 1 目的

本報告の目的は、子育てひろばにおけるアドバイスが育児の知識・経験をどのように利用して組み立てられているのかを明示することである。子育てひろばにおけるアドバイスの研究は、エスノメソドロジー・会話分析の視点からの蓄積がある（松木 2013; 戸江 2018）。子育てひろばにおいては「等身大の」やりとりが好ましいとされ（大豆生田 2006）、アドバイスは避けられることがある。今回調査を行った子育てひろばでも、アドバイスの回避はスタッフ間でモットーとされ、実際多くは観察されなかった。それは、育児のアドバイスは養育者の体面を脅かすものであるため（Heritage & Sefi 1992）、ひろばの水平的関係や和やかな雰囲気を壊してしまう可能性があるからだろう。しかし、今回アドバイスが全く観察されなかったわけではない。子育てひろばにとってのリスクを抱えた行為が敢えてそこで為されるとき、その組み立ての手続きを詳細に見ていくことは、私たちの社会において、何をどのように配慮しながら育児についてのやりとりをすべきだとされるのかを、改めて想起させるだろう。

### 2 方法

エスノメソドロジー（Garfinkel 1967）の視座から、報告者が2018年10月～2019年1月に収集した録音データの一部を分析する。フィールドは関東圏の都市部にあるNPO法人が運営する子育てひろばであり、代表理事・各スタッフ・各利用者に了解をとった上で、ひろばにおける会話の録音を、毎回3時間程度、計11日に渡って行った。

### 3 結果

分析する中で興味深いものとなっていたのは、知識・経験の普遍性と固有性（前田・西村 2018）である。アドバイスのやりとりは、育児の知識・経験が個人や家庭に閉じられていないこと（＝普遍性をもつこと）を前提に可能になっている。その一方で、育児の知識・経験は養育者や被養育者によって極めて多様である（＝固有性をもつ）。この意味で、育児のアドバイスはそれらが交差する営みであると言える。実際、育児のアドバイスは、そのやりとりを行う当事者がそれらを巧みに利用することで、子育てひろばの秩序を維持するよう組み立てられていた。

### 4 結論

育児の知識・経験の普遍性と固有性をどう扱うかは、子育てひろばにおいてアドバイスを組み立てる当事者にとっての課題となっていた。また、それらの使用を問うことは、育児がどのように社会化可能なのかという家族社会学における課題にも示唆を与えるものである。

### 主要文献

Garfinkel, H, 1967, *Studies in Ethnomethodology*, New Jersey: Prentice Hall Inc..

Heritage, J. & Sefi, S., 1992, "Dilemmas of Advice: Aspects of the Delivery and Reception of Advice in Interactions between Health Visitors and First-Time Mothers," Drew, P. & Heritage, J. eds., *Talk at Work*, Cambridge: Cambridge University Press, 359-417.

前田泰樹・西村ユミ, 2018, 『遺伝学の知識と病いの語り——遺伝性疾患をこえて生きる』ナカニシヤ出版.

戸江哲理, 2018, 『和みを紡ぐ——子育てひろばの会話分析』勁草書房.